

第2次 三次市教育ビジョン

ゆめびと こうきしん
みよし結芽人～幸輝心～

令和4(2022)～令和13(2031)年度



ゆめびと こうきしん
みよし結芽人～幸輝心～

基本理念(4ページに記載)に基づくひとづくりを進めていくためのスローガン(合言葉)は、「みよし結芽人～幸輝心～」とします。

「みよし結芽人」は、これまで進めてきた「三次夢人」の育成の視点を踏まえつつ、10年後を見据えて、自分自身が芽のように伸び、自分の夢や思いを結び、達成させる存在であり、ひと・もの・こととつながり、三次市の新たな魅力や課題へ主体的に関わっていくひとという思いを込めています。

また、「幸輝心」は、「幸せに向かって輝く」姿として生涯にわたって質の高い学びを重ね、それぞれの立場で成長し、輝き続ける力をもったひとであることを意味します。学び続けるための「好奇心」を持ちつつ、幸せに向かって自らが成長し続ける意味も含めています。

令和4(2022)年3月
三次市教育委員会

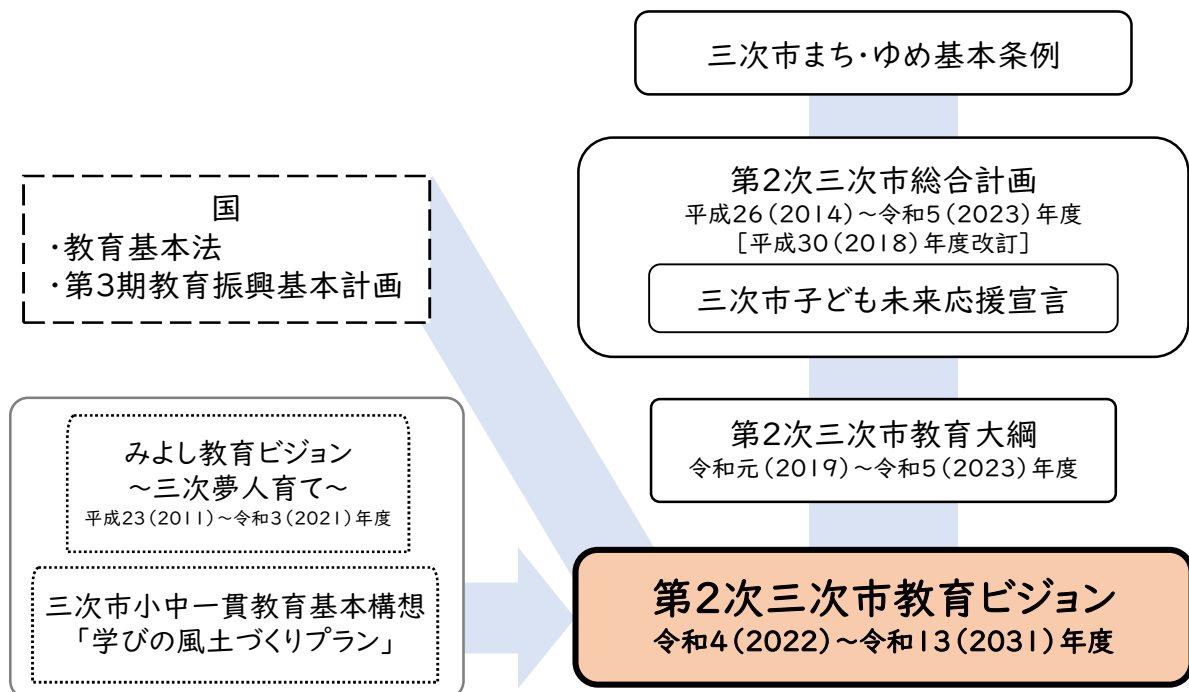
1 策定の趣旨

平成24(2012)年度から令和3年(2021)年度までを見通した「みよし教育ビジョン」の策定以降、次代を担うひとづくりやまちづくりを進めるための「第2次三次市総合計画」、「第2次三次市教育大綱」等を踏まえた取組を計画的に進めています。

三次市を取り巻く社会状況の急激な変化や、今後さらに予想される人口減少・少子高齢化、高度情報化等にしなやかに対応し、「持続可能な三次」をめざすため、令和4(2022)年度から令和13(2031)年度までを見通し、三次市の教育指針となる理念と基本方針をまとめ、第2次三次市教育ビジョンとします。

なお、社会状況の変化により、必要が生じた場合には見直しを行います。

2 三次市の教育に関する計画の位置づけと計画の期間



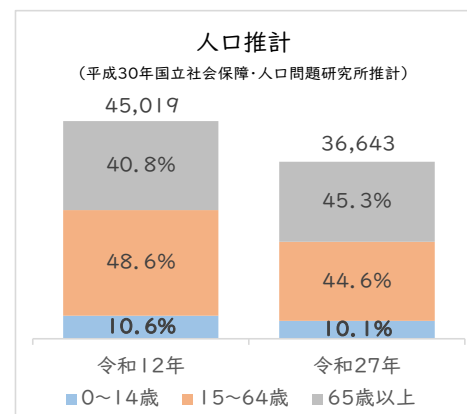
3 三次市の教育を取りまく状況

(1) 社会状況

長期的な動向

継続的に人口減少や少子高齢化が進むことが予測され、子どもの数及び割合ともに減少する見込みです。

また、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等をはじめとする技術革新が進展し、超スマート社会(Society5.0)の到来が予想されており、労働人口の相当規模が技術的にAI(人工知能)等で代替可能になると言われる一方で、これまでになかった仕事が新たに生まれることが予測されています。



今日的な状況

世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大は、一人ひとりの生命のみならず、社会経済や市民の行動・意識・価値観まで多方面に影響を与えており、社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われています。また、子どもにとっては、学校に通えない状況や友達と共有する場が制限される状況が生じています。そうした中で、テレワークやオンライン学習などが促進され、社会全体でのDX(デジタルトランスフォーメーション)が加速しています。

ひとづくりに係る取組について

コロナ禍が続く中で、小中学校は、学習機会と学力保障という役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながるができる居場所として身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割をも担っていることが再認識されています。一方で、学校に求められる役割が増大し、教職員の負担が増え、献身的教職員像を前提とした学校組織での教育の質的充実は困難となっています。

生涯学習においては、労働市場の構造や職業の抜本的な変革が予測される中で、社会人が学びなおすことの重要性が高まっています。

これらを踏まえ、三次市の魅力である豊かな自然・文化・歴史や地域コミュニティなどを背景に、これまで進めてきた小中一貫教育や社会教育を生かしながら、「持続可能な三次」の実現のために、社会総ぐるみでのひとづくりを進める必要があります。

(2) 児童生徒の状況

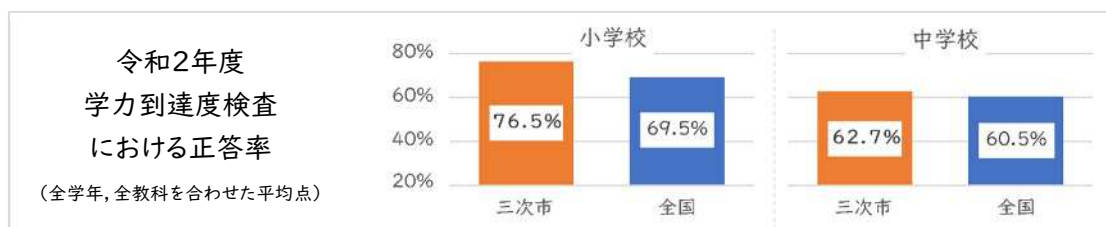
学びの環境整備

三次市では、児童生徒一人1台のタブレット端末の導入等、ICT(情報通信技術)の学習環境の整備を進めてきました。オンラインやAI(人工知能)等を学習方法や教材として積極的に活用することで、学習を頑張っている子やさらに学力を高めたいと望んでいる子、勉強が苦手だと思っている子等、すべての子どもたちの力を伸ばすよう、一人ひとりに最適で効果的な学びの支援を行っています。

また、障害のある子どもだけでなく、さまざまな支援が必要な子どもを含め、子どもたちが安心して生き生きと学校生活を送れるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級といった多様な学びの場を保障するとともに、学校(教育)支援員や障害児介助指導員等による一人ひとりのニーズに応じた支援を行っています。

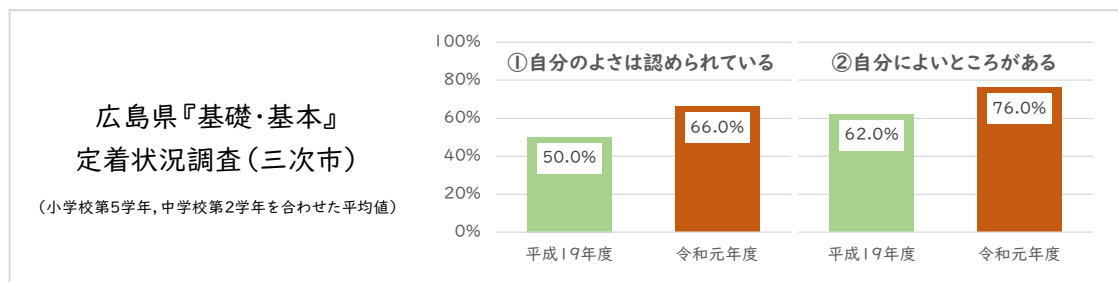
児童生徒の学力

児童生徒の学力は、三次市全体では全国平均を上回っており、おおむね学力は定着しています。一方で、学習した内容を組み合わせて、新たな課題を解決していく力が十分とはいえない状況です。



将来の夢や目標をもつ児童生徒

地域のひと・もの・ことを活用した学びやキャリア教育に小中学校で系統的に取り組むことを通して、高い志や将来の夢、目標を持つ児童生徒が増えています。



生徒指導

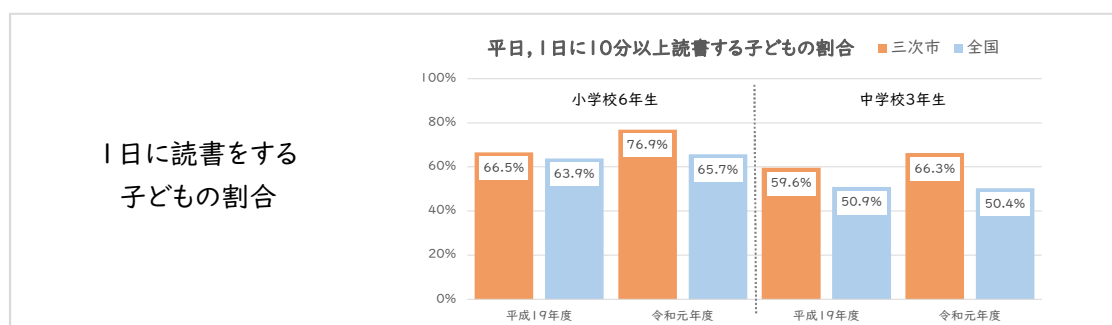
生徒指導面では、暴力行為やいじめ等への早期解決が図られています。最近では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を介したトラブルや家庭における虐待等の問題が増加傾向にあります。また、不登校の状況についても、全国、広島県の傾向と同様に少しずつ増加傾向にあります。

体力

体力は、三次市全体として全国平均と同様の水準となっていますが、走力及び持久力は十分とはいえません。運動やスポーツをすることが好きな児童生徒は8割を超えています。

読書活動

これまで、学校・家庭・地域等が一体となった読書活動を推進しています。読書をする児童生徒の割合は、小中学校ともに全国の割合を上回っており、年々、向上しています。



(3) 生涯学習の状況

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、多くの保護者が子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立するなどの課題があるため、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」(通称:親プロ)との事業連携や家庭教育支援チーム設立に向けた取組等、家庭教育支援の事業を推進しています。今後は、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の事業に関連づけながら、三次市の教育力を地域で支える事業を展開していく必要があります。

また、労働市場の構造の変化に対応し、超スマート社会(Society5.0)、人生100年時代において一人ひとりが輝き続けるため、人生を再設計し、個々のライフスタイルに応じたキャリアの選択を行い、新たなステージで求められるスキルを身に付ける学習機会の提供が求められます。

4 現状を踏まえた重点事項

急激に変化する社会状況の中で、三次市の学校教育においては、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識し、他者と協働しながら、新たな価値を創造し、持続可能な社会の主人公となる資質・能力を育成することが必要です。

また、三次市の市民が変化の激しい社会を生き抜くために、生涯にわたって質の高い学びを重ね、それぞれの立場で成長し、輝き続ける力を身に付けることができるよう、市民一人ひとりの「可能性」と「チャンス」の最大化を中心課題に据えて取り組む必要があります。

(1) めざす社会の実現に向けた教育の役割の明確化

- 夢や目標の実現に向けて、課題等の解決に主体的に取り組み、より良い解決をめざそうとする自立したひとを育てること
- 多様性を認め、互いの人格を尊重しあい、協働しながら、自らの役割と責任を果たそうとするひとを育てること
- 地域や組織の一員として、その持続や発展のために貢献しようとするひとを育てること

(2) 超スマート社会 (Society5.0) と人生100年時代の到来を見通した取組

- 一人ひとりの可能性と学びや活動の機会の最大化をめざして、幼児期から高齢期まで、生涯にわたって一貫した理念での教育の実現
- 変化の激しい社会で輝き続けるために、大量の情報から必要な情報を読み取り、継続的に活用できる力を身に付けることができる環境整備
- 人生100年時代を見通し、若年期において基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、生涯にわたって自ら学び続けながら心豊かに生きることができるようになること
- ICT(情報通信技術)の学習環境の充実を図り、オンライン(インターネット)やAI(人工知能)等を学習方法や教材として効果的・積極的に活用すること

5 基本理念

このビジョンの基本理念は、「自立」「協働」「貢献」の方向性を実現し、今後の世界モデルとなる地域社会の構築をめざす、第2次三次市教育大綱の基本理念に準ずることとします。

高い志をもち 夢や目標の実現に挑戦し 自立を図るとともに
他者と協力し 住み続けたいまち三次の実現に貢献する
心豊かで たくましい ひとづくり



基本理念

高い志をもち 夢や目標の実現に挑戦し 自立を図るとともに
他者と協力し 住み続けたいまち三次の実現に貢献する
心豊かで たくましい ひとづくり



スローガン

ゆ め び と こ う き し ん
みよし結芽人 ~幸輝心~

I 子どもが高い志をもち、夢や目標の実現に挑戦するために必要な力の育成

政策1 チーム学校による学力保障

教職員が最大限に力を発揮して、子どもが自立するために必要十分な学力を確実に身に付けさせるとともに、豊かな心と身体を育む学校教育となるよう取り組みます。

- 教職員の資質向上のための授業研究の充実
- 子どもと向き合う時間につなぐ働き方改革の推進

政策2 個別最適で効果的な学びの実現

一人ひとりの子どもの関心や学習進度に応じて、主体的な学びを実現する教育活動に取り組みます。

- 一人ひとりの個性や可能性に対応するICT(情報通信技術)等の効果的な活用
- 特別支援教育の充実

政策3 体験活動と読書活動の充実

三次の豊かな自然や伝統文化等と関わる体験活動や読書活動の充実を図り、自我形成や社会性、論理的思考力等を育成します。

- 自我形成や社会性等の育成のための多様なひともの・ことと直接的につながる体験活動の充実
- 論理的思考力等の育成のための読書活動の充実
- 体験的活動を取り入れた防災教育の充実

II 子どもが安心して過ごし、次代を担う自覚が育つ「地域とともにある学校」づくり

政策4 学校・家庭・地域等の連携協働

学校・家庭・地域等が連携協働し、それぞれの役割を果たしながら、「持続可能な地域」の担い手となるひとを育てます。

- 中学校区単位でのコミュニティ・スクールの推進
- 地域部活動協働事業の推進
- 幼保・高校・大学等との連携

政策5 安全・安心な居場所づくり

すべての子どもが安全に安心して過ごせる居場所がある学校や地域となるよう取り組みます。

- いじめ・不登校対策及び生徒指導の充実
- 多様な子どもの魅力ある居場所づくり
- 豊かな教育環境につなぐ学校規模適正化及び学校施設整備

III 生涯にわたって市民一人ひとりの可能性とチャンスを最大限高める環境づくり

政策6 生涯を通じた多様な学習機会の情報提供

市民が生涯にわたって学び続けることができるよう、学習機会に関する情報を広く発信します。

- 市内外の学びの場の情報集約と発信
- 家庭教育支援の充実
- グローバル社会で活躍できるひとの育成

政策7 地域文化資源の積極的活用

三次の豊かな文化資源を積極的に有効活用し、市民が歴史・文化・芸術に親しむ環境の充実を図ります。

- 文化財の計画的保護と情報発信
- 市民の豊かな人間性の涵養に資する歴史・伝統・文化・芸術の活用



発行 三次市教育委員会
令和4年3月

〒728-8501

三次市十日市中二丁目8番1号

電話 0824-62-6182

FAX 0824-62-6288

メール bunka@city.miyoshi.hiroshima.jp